

おめでとう

斎藤英四郎氏(36回) 経団連会長に就任

青山同窓会の先輩である斎藤英四郎氏は、此度、経団連の会長に就任されました。編集部への依頼に、大変ご多忙の中をこころよくご寄稿下さいました。



ごあいさつ

青山同窓会会長 鍵 富清一郎

暑い夏、総会ですね。皆さん揃って元気で、何よりです。今年も、同窓の斎藤英四郎さんが経団連の会長になられて、おめでたいことでした。青山同窓会も益々意気上が



発行所/青山同窓会
〒951 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL.0252-66-2131
編集、発行人/上村光司
印刷所/オリオン印刷機
〒950 新潟市南出来島1-19-1
TEL.0252-83-2151
FAX.0252-83-3804

思い出

36回 斎藤 英四郎

私は新潟に生れ、昔の新潟師範附属小学校、中学校、高等学校を卒業した諸兄の旧い先輩の一人である。



人生に於て一番楽しいまた貴重な幼少時代を過ごした故郷新潟には、今日迄忘れ得な

五月の空に現れぬ
われは幼き童の
草にまろびて叙事詩をば

広いの果ての白雲は
巨人の如き姿もて
70才をこえる今日迄、私の人生にも幾多の波瀾があった。

悲しく読みてありけるが
雲の巨人は厳しくも
子よ、大いなる人となれ
夕べ野を吹く風ありて
雲の巨人は音もなく
ゆれて崩れて失せしかど
五十路をこゆる今も尚
啓示となりて残るなり

は、今も私の記憶に鮮烈な
余韻を残している。
少年雑誌に載った詩だった
のであろう。限りなく続く寄
居浜、関屋浜の砂丘、生い茂
るぐみの木や、浜茄子の花の
中に寝ころびながら、空想と
現実の世界に描いた少年時代
の夢が今も忘れられない。

叙事詩は英雄興亡の歴史で
あり、民族隆衰の歴史である。
何千年にわたるこの洋の東
西の歴史は華麗でもあり、悲
劇でもある。これを点綴する
主役は王様であったり国民で
あったりするが、いつもそこ
には偉大なロマンがあった。
更に共通している点を求め
れば、この歴史上の人物達が
何れも、大いなる人"だった
ことであろう。

久の夢を育くみ続けているの
だろうか。
昨今のこと知らないが、
そうあって欲しいと思う念は
切なるものがある。

東大合格者17名 史上初の快挙!

61年度大学入試で現役生が
目を見張る成果をあげた。
共通一次試験5教科7科目
最後の年、自己採点の集計結
果、本校生の平均点アップ。
伝統的に、「入れる大学より
入りたい大学」を目標にする
本校生は、旧帝大を中心に累
外大学を志望。国公立大学は
現役生同志の戦いになると言
われた61年度入試、二次に向
けて第三学年の先生、生徒一
丸となって実力養成に努力
大成果をあげた。国公立大現
役生合格者数212名、現・浪合
わせて330名は、本州(北海道
九州、四国を除く)の公立高
校第一位の成績、全国で第五
位となった。質的にも向上、
東大17名、北大13名、お茶大
6名、東京外語大11名、横浜
国大16名は本校史上初の数で
ある。

◆大学別合格者

●国立大	59年	60年	61年
北海道大	3	5	13
東北大	27	18	30
筑波大	6	10	14
東京大	11	14	17
東京外語大	8	2	11
東工大	7	5	6
お茶の水大	3	3	6
一橋大	3	3	5
新潟大	156	172	154
金沢大	3	3	4
京都大	8	6	2
合計	872	759	877

東京青山同窓会 新入生歓迎会 開かる!

去る5月20日、夕6時より
原宿駅前水交会(東郷神社境

内)にて恒例の新入生歓迎会
が開かれました。今春卒業し
た新入生が50名ほど出席し、
新潟高校から昨年度三年担当
の枡倉先生、立川先生が駆け
つけ、全体で約百名の会員が
集まりました。
南学会長、田中幹事長のあ
いさつの後、74回卒のイラン
研究家の五十嵐一氏の興味深
い講演があり、会を盛り上げ
ていただきました。

栗林貞一氏(59回) 海上保安庁長官に就任

栗林氏は大変ご多忙の中を編集部依頼にこころよくご香稿下さいました。今後のご活躍をお祈りします。

新潟の発展を祈って

59回 栗林貞一

私も昭和20年4月、旧制の新潟中学校に入りました。先生制の新潟中学校に入りまして。ところがすぐに終戦。そして世の中は混乱期。そのうち学制が変わって、同じ校舎・火災の前の古い校舎に6年。気がついたときは新制の新潟高



めでたく追い出されて東京に出て来ましたが、早いものでもう三十五年になります。昭和30年に運輸省に入り、若

うちはただ夢中で仕事をしていたが、年を経て、熟年とか実年とかいわれる頃になると郷里のことが何かと気になるものです。

数年前、運輸省内の雑誌に「表と裏」という随筆を書いたことがあります。新潟のあ

実行委員長卒業の記

60回 小林亨

青山同窓会総会実行委員長を筑波先輩から引き継いで3年過ぎ、この度卒業することになりました。各期幹事の皆様のご協力とオークラホテル

の大出血サービス、60回卒同期の諸兄のご支援に深く感謝申し上げます。その上学校側の先生方のご奉仕がなければ運営も出来なかったものと厚く御礼を申し上げます。振り返ってみれば、マンネ

リズムを絵に書いた運営でもう少し何とかならなかつたものかと慚愧に耐えませんが、64回に次期委員長をお願いすることは、玲瓏の天、世代から「百里流れて」世代へのバトンタッチであり、新しい企画で総会が運営されるものと思ひます。

先輩と後輩の交流を図りたい、同期だけじっくりとやるように、というどちらを立て

たりを「裏日本」というのはどういうことか。一体、日本の裏と表は誰がきめたか。「裏日本」は、厳しい冬の気候と日本海の荒波に堪えながら、頑張っている人に失礼じゃないか、と。それ以後私に会う人の多くは「日本海側」というようになりまして。新幹線も高速道路もでき、空港もさ

たら良いのかの問題。校歌合唱がタクト・ピアノ・会員の歌がそれぞれ合わない。日本酒が少い、焼酎を出して欲しい。女子会員が参加しやすいようにして欲しい。若手会員の参加が少い。料理が足りない。アトラクションはやれないか。いろいろの要望があり

ました。改善出来るものはやりました。改善出来ぬものはやりました。改善出来ぬものはやりました。改善出来ぬものはやりました。

た。青山同窓会の総会が待ち遠しい素晴らしい会にして下さる様に、白髪のお兄さんおられるようですが、64回卒の実行

委員長に期待してお願いしました。東京同窓会のご協力を得て職業別名簿が発行されると聞きました。仕事に、就職に大いに役立つものと思ひます。新機軸を取入れて、青山同窓会が益々発展しますよう祈念いたします。

この三年間のご指導に深く感謝申し上げます。実行委員長を卒業させて載きます。

(60回の六の日に東堀「万燈」に集まる会は参会者が会を重ねる毎に増えてきました。散歩がてらにお出掛け下さい。

是非とも必要です。新潟にいる皆さんも東京にいる我々も一体となって、我々をばぐぐんでくれた郷土のために頑張ろうではありませんか。

ためまざる前進を

59回 中野文郎
(新潟高等学校教頭)



明るい春の陽を背に受けながら、偉容を誇る本校の正面玄関に立っている。三十年前には白亜の殿堂を思わせた校舎も、歳月の流れにはかたずかなり朽ちかけている。この間の歴史は外から眺めていた。まして、木造校舎で学んだ私

である。三十数年の時の流れに抗しきれず、むやみと懐かしさがこみあげてくる。早速かつての面影を求めてみる。プールの中の位置・前庭、そして外まわりの柵の数本が三十数年前の匂いを嗅ぐわせてくれるだけである。グラウンドの松も今は見ることができない。ただ以前と同じ所にあることに安堵感を抱く。

目を閉じてみる。I先生の漫談調・A先生のお小言・F先生の白衣姿・O先生の説教調・K先生の軽やかな口のすべり、かつて教え賜った諸先生のお姿が思い浮かぶ。

正面玄関に通ずる廊下に今春の大学合格者名が張り出されている。国公立大学に三百

二十名を越える数である。私立大学も同じ。これは近來にない好成绩である。巷では新潟大学合格者数が南高校のそれより少ないといつて本校をいぶかる声を聞く。内情を知らない者の声である。地元離れの現象で逆に質・量ともにすばらしい成績を挙げ得たので、今や全国の高校から羨望ともうかがえる熱い視線が注がれている。

学習面ばかりではない。昨年度はラグビー部が念願の花園出場を果たしたのはじめ、それぞれの部が大活躍をし、新潟県高等学校スポーツ最優秀校として高体連表彰を受けている。

このように生徒たちは、文武両道にわたって、先輩たちの築きあげた輝かしい伝統の上に、しっかりと足を踏みしめ、さらに翔けんがために努力を続けている。

今春の異動で、はからずも母校新潟高高校にお世話になることになった者です。やがて百周年の時を刻まんとする輝やかしい伝統、そしてそれを受け継ぎ、次代への飛躍を約束してくれる生徒と先生方、うって一丸となっている姿に接することができ喜びと誇りをしみじみとかみしめながら、心を新たにして、惜しみなき努力をと思うのである。

極道のあげくの果ての学問

59回 加藤 吉 策
(前PTA会長)

この三月、娘の卒業でPTA会員の資格を喪失し、会長の職務も卒業させて戴いた。三年の間、大過なく過ごすことができて、正直なところホッとしています。

ところで、最近、大学入試の改革論をはじめとして、教育論が花盛りである。

先日、何気なく見ていたテレビで、大学改革の座談会があり、そこで某教授が国立大学の民営論にふれていた。

明治以来の、国立や官公立の学校の評価に、時代の流れが届いたのかと、たいへん興味深かった。

そういえば、国立大学合格者が、入学を辞退して、大都市の私立大学へ進学する傾向が増加しているという。

われわれの時代では到底考ええられなかったことで、まさに時代は変わるの感が深い。

高校の入試傾向には、もっと大きい変化が起きている。大都市では、優秀で、家庭のいい中学生が私立の高校を自ざすという。事実、進学率だけ見れば、一部の私立高校は抜群の成績を修めている。地方

の勉強の方法が振りまわされることになる。反応が速ければ速いほど得になるのだから、あまり素早い反応をする人間は、どうも好きになれない。むずかしいところだ。

文化爛熟の江戸時代、最高の道楽は学問をすることだったという。

わが母校、新潟高校は、その地方の公立の、普通科の、進学校たる高校である。予備校ではない。むずかしいところだ。

ことに最近では、大学の入学試験の傾向が、めまぐるしく変わっている。そのたびに高校学問をしてみたい。

教育をするのも、受けるのも人間である。文明のためだけでなく、文化のための教育を作らなければならない。極道のあげくの果ての学問をしてみたい。

寄稿

您好！

60回 向井 和夫

您好ニハオ、好久不見ハオチョーブチエン

大変ごぶさたしております。小林亨兄より突然近況報告せよとの葉書を受け、なれない筆をとり乱文乱筆お許し下さい。

一七〇〇年代マゼランに発見された緑の島フォルモサ現在の中華民国台湾省台北市(人口約二五〇万)に住みついで早や18年、住めば都、第二の故郷台湾での、元新潟健児の近況を御知らせします。

国を出て28年一匹狼(天年)の僕は台湾上陸する前は、ペ

す。へえ、あの向井が？なんて思っても知れませんが毎日家では日本語、事務所では日本語、英語、中国語の三ヶ国語を使わなければ家に帰れないことす。

家族構成は男4人に、ゴルフ・テニスで男より色の黒い女房1人、商社の駐在員は大体四年で帰国しますが、日本人学校の息子の担任が「お父さんはなにをしているの？」と聞かれる程幼稚稚園から中学3年まで日本人学校に世話になり、長男は高校、大学と東京に8年、今年就職、次男は千葉の全寮制高校、三男がこれも東京に来年は行くと言、参考までに台北日本人学校今年度の生徒数は八百二十名、P・T・A副会長を三年、女房はバス委員長、毎日11台のバスを台北市内走らせております。

趣味は家族全員のテニス、年一、二回全員集合、去年は初めて長男が私を負かし鼻高々。月一、二回のゴルフ、新潟時代に長谷川秀三兄と熱中した海釣を時々。全て自宅を中心にして三十分以内で目的地に到着出来ます。

新潟の皆様、今はやりのジャンルバームーン兼同窓会を時々東京で会う高木兄に企画してもらい、是非台湾でおいしい

中国料理のテーブルを囲み昔話に一夜を過せる様御計画下さい。皆様の益々の御健勝を常夏の島台湾よりお祈り申し上げます。

本校が作る名簿は、今まで通り学年別に、東京青山同窓会が作る名簿は職業別にし、両方が交互にできるのはどうだろうか、という話が東京で出ました。しかし資金が東京同窓会にはない。それではと云う事で、東京青山同窓会の認可の元で、職業別名簿を自主制作しようという気になり、

昨年から準備を進め、現在、皆様にご案内と返信ハガキをお送りしております。

基本名簿は90周年の名簿を東京と新潟の有志の方に手に入れていただきました。これにより編成局より直接、会員に郵送しております。不着の方もあると思いますので、お申し出いただければ、早速ご案内させていただきます。

返信をいただいた会員のみを掲載する名簿なのでお一人でも多くと念願しております。職業別ですが会員でご在宅

(住所) 台北市民生東路三三巷十一寺四号之一
(自宅電話) 台北五〇五一七一一〇

職業別ですが会員でご在宅

職業別名簿について

60回 金山 常 吉
(東京青山同窓会常任副幹事長)

本校が作る名簿は、今まで通り学年別に、東京青山同窓会が作る名簿は職業別にし、両方が交互にできるのはどうだろうか、という話が東京で出ました。しかし資金が東京同窓会にはない。それではと云う事で、東京青山同窓会の認可の元で、職業別名簿を自主制作しようという気になり、

昨年から準備を進め、現在、皆様にご案内と返信ハガキをお送りしております。

基本名簿は90周年の名簿を東京と新潟の有志の方に手に入れていただきました。これにより編成局より直接、会員に郵送しております。不着の方もあると思いますので、お申し出いただければ、早速ご案内させていただきます。

返信をいただいた会員のみを掲載する名簿なのでお一人でも多くと念願しております。職業別ですが会員でご在宅

(住所) 台北市民生東路三三巷十一寺四号之一
(自宅電話) 台北五〇五一七一一〇

職業別ですが会員でご在宅

職業別ですが会員でご在宅

校庭スナップ



グラウンドうしろのポプラ並木がなくなり野球ネットが高く張られました。

追悼 小山久一君をしのぶ

35回 沢山 巖

第35期の小山久一君は、昨年7月手足の不自由から弁天橋病院に入院してリハビリに励んでおられたが、急性呼吸不全で3月18日逝去された。

かつて、万松堂書店の故西村喜太郎君が不作の35期という一文を寄せられたことがあった。その中であつてこの一年間に有力な同期の人、越乃寒梅の石本省吾君、全国土地改良区理事長の鷲尾貞一君、新潟日報の小柳胖君を次々に失つた。今また同期の大幹事であつた特異な存在の小山君に逝かれて当惑すると共に寂寥の感に堪えない。

小山君の家は、新潟では篠田、室長と並び称された伝統のある古い一流旅館の「小基」である。彼は若いときから宿屋の主人であつた。然し業務の方は経験豊かなお母様と賢夫人の奥さんにかまかせて、自分自由気ままな宿屋の旦那様であつた。有名な政治家も多く泊まれ、吉田首相お泊りの時でも自分はお挨拶だけで、専ら奥さんがお話相手とされたとき。



昭和29年学校の焼失に際しては同窓会役員として大きな功績を残した。長谷川会長さんを助けて復興期成会を結成

は殆ど見たことがなかつた。同窓会の役員会、総会等でも和服で通し、明治生れの風格が偲ばれる。恵まれた家庭に育ち、権威に媚びることを嫌ひ、常に自分の信念をまげずに生きた人であつた。

自ら白勢さんにお願ひして会社の一部を無償で同窓会の事務所として借り、毎日出勤して学校復興募金の推進に協力した。

午後になると白勢誠一君と連れ立って小唄の稽古に通う粹人振りも忘れなかつた。不作の35期でも母校思いは人一倍、復興寄附金や、七十周年記念募金で一、二位の成績を得たのも彼が熱心に活動した結果である。

彼にとつて囲碁は生涯の友であつた。たまに訪れると自室で碁盤に向つて棋譜の研究に余念がなかつた。多くの碁仲間を持ち、県下有数の高段者で、俺は君知事の先生だと言つていたこともある。

友達を大切に、34期には多くの親しい友を持つていた。仲間の面倒見がよく、ある時は落ちぶれた同期生に衣服を与え、東京までの旅費を調達してそつと送り出すなど人情味溢れる一面を窺はれる。

大の読書家で雑学の博士でもあつた。飄飄とした物腰の内にも剛直さを持った正義漢であつた。同窓会役員会で筋の通つた正論を咄々と述べてゆずらなかつた姿が思い浮かぶ。田中角栄の一審判決が出た時、新潟日報の「窓」や朝日新聞の「声」に投書して、

「角栄よ新潟へ帰れ」の論陣を張つて衰えない彼の真骨頂を見せてくれた。

追悼 東京青山同窓会会計幹事を歴任 相田先輩(41回)を悼む

60回 金山 常吉
応援歌はやはり何と云つても、「霞たなびく青山の」が一番印象に残る。

小學生の時、星という応援団長の美声に憧れ、入学した時は児玉応援団長が独得の声で皆をリードし、四年になった時(昭和7年)五年生に柴田、小島、星野、長谷川、といった豪傑がいて応援団体制が強くなり、応援の練習も厳しくなつた。

私は野球部にいたので応援される方だったが、時々は広

青山俱樂部 小山さん

私の半生近い日を過ぎた青山同窓会の中で最も印象に残る人である。飄飄とした和服の着流して小唄を口ずさみ、ある時は真剣に碁盤と取り組む。

文学、芸術、東西の歴史と人生の裏話に至るまで、幅広く豊富な話題はつきない。

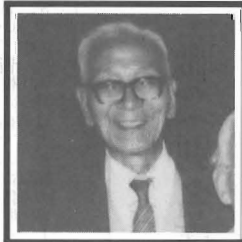
小山さん、あの世とやらで何してますか、長谷川寛先生(前会長さん)と一こん汲み交わして同窓会でも論じてますか。

染香院釋久演 ご冥福を祈ります。(事務局 岩田)

東京青山同窓会の会計も永く担当された。

いつも同窓会の運営にムダな金を使わず少しでも積み立てて、資産を作らなければならぬと、我々をきびしく指導されていたが、ご自分の金を廻わされて、急場を凌いだ事も再度ではなかつたと思つている。

昨年未、花園の遠征費のため奔走され、そのあとすぐ、清瀬東京病院に入院、6月18日朝、お亡くなりになられた。



相田先輩の晩年は八千代ビルディング(株)の常務をやられた。

寄稿 昔なつかしい行事の一つ

23回 清水 浩一

今日の交通事情からは、全く夢にも考えられん、のんびりの時代でした。明治末期から大正の初め頃の昔語り。当時六百の健児が一番楽しみにしていた行事といえ、創立記念日(七月一日だった?)の提灯行列でした。

代わりを声高らかに唱つて市内を練り歩いたのです。今思い出しても忘れ難いものがありますので、若い会員諸君に披露しますわけ。その一部を左記しますと――。

松緑なる丘の上 耀よう白雲美しく 寄せて返す波の音 其処青爽の天地の 南に懸ける鵬スウは 風吹く秋を待ちまてる 天津の湖に靉を唱え 寄居ヶ浜に勝ちを占め 浮島城下に関の声 正義の風に翻える 嗚呼勇ましの優勝旗 映えある歴史を君見すや 西青嵐の弥彦山 東銀蛇の信濃川 仰げば高き星の影 伏しては清き浅緑 黄金や蒼れ何かせん 吾らに高き希望あり

「青山水友会誌の発行」 昭和六十年度水友会総会の記念誌が出来上りました。約三十年ぶりの会誌発行です。往年の選手の話、メンバーの近況、及び水友会の歴史などをまとめたものです。 残部約五十部のみ。一部二千円(送料二百円)注文・問合せ、新潟高校・横瀬 功

寄稿

丹羽玄子の秀句

41回 本間 敏雄

「風花やあまくなりたる
ボタン穴 玄子」

この句は俳誌「露」六月号の巻頭に載っている句である。玄子とは同期の市井の一医師丹羽正樹君の俳号である「露」の主宰者倉田絃文は別府大学文学部教授で高浜虚子の門下高野素十に師事、昭和三十四年俳誌「芹」に入会し、四十七年素十にすすめられて「露」を創刊した。高野素十は新潟



風花やあまくなりたるボタン穴

を創刊した。高野素十は新潟大学医学部教授で同大学の中田みづは、浜口今夜とともに高浜虚子から「三羽鳥」と云われた俳人である。玄子は多年俳句に打ちこみ中田みづほに生前より親炙し、仲々名句をのこしてあり、屢々筆者にそれを示して感想を求めている。今般、露に投稿した数句の中五句が選に入ったが、冒頭の句が巻頭句として載ったのである。その選者の評が仲々味わい深く筆者は心うたれることが多くあった。その評に曰く「白くゆるやかに、そして時に白く激しく風花が舞う。漂うように、流れるように、白く線を引きながら風花が宙

幾歲月の郷愁にも似た回顧が甘く切なく表白されている。この人生の詠嘆なる一句に、私はふと、かの草田男の降る雪や明治は遠くなりなけり 草田男を思い浮かべ重ね合わせて、玄子さんの憂愁をしみじみと再誦しているのである。」 医師とし、一方俳句に打ちこんでいる玄子さん、この評を見てますます、精進されるよう筆者は期待する。妄言多謝。 「郷土新潟」の歴史を同好の士とともに調査している筆者には不明のことが多い。「日暮れて道遠し」の感深く、このような句や句評を見ると一服の清涼剤の如く思われる。 (六月廿六日記)

寄稿 新潟中学校第七回卒業生 明治三十三年 高橋 宏

42回 高橋 宏

本会報36号(58年1月21日)および41号(60年7月18日)所載「画人笠原軼とその父漁村(三) および(七)」に、保倉熊三郎の名が出ています。漁村先生の長男軼氏とは同

級で、他に会津八一、石井大介、長谷川軼、伊藤成治などの方々と一緒に、明治33年4月7日の第7回卒業式に臨み代表として答辞を読んだと、上記(七)に記されている。

保倉熊三郎は私の母の弟である。つまり、私にとっては叔父にあたる。出身は中蒲原郡白根町の魚問屋、保倉の男3人、女1人の末っ子で、同姓の保倉熊次郎氏の養子として、新潟中学、一高、東大を経て、新渡中、養父熊次郎氏は弁護士で、住居は旭町通り(仲通り)に平行した通りで、医大及び付属病院のある台地との中間の住居区) 東大では仏法を銀時計で卒業。大蔵省へ入省後、税務関係に携わり、やがて長野、仙台などの税務署長を経て、神戸税関署長を務め、その後本省銀行局長。次いで昭和5年3月、9年1月まで造幣局長(大阪在勤)。その後、官営八幡製鉄所(現新日鉄)の筆頭常務に就任。さらに数年後、当時の「国策会社」の一つ、日本屑鉄株社長。昭和18年肺炎で死去。享年60才。

銀行局長と造幣局長の歴任順序は、私の記憶によるもので、記録に基づいて確認したものでない。また大蔵省から八幡製鉄へ、さらに日本屑鉄への夫々の転出のいきさつは大人達の話聞きかじって、それが有る程度いまま頭に残っている。昭和5年から昭和9年までの総理大臣は、幣原喜重郎

ラグビー部花園会計 決算報告

Table with financial data for the Rugby Club Garden. It includes two tables: '1. 収入の部' (Income) and '2. 支出の部' (Expenditure). Total income is 17,542,385 and total expenditure is 6,707,402. Balance is 10,834,983.

収支差引残高 10,834,983円
うち10,000,000円定期預金積立
花園出場記念クラブ振興基金

若月礼次郎(第2次) 犬養毅 高橋是清(臨時首相代理)、齋藤、大蔵次官は、河田烈、黒田英雄。これらの首相の時期には、相次いで色んな事件や政治問題が起きた。手軽く当時の政情、世情を知るのに、豊田穰「西園寺公望」下巻や藤田龍夫「重臣たちの昭和史」上下巻が適している。 ついで、総理大臣は岡田啓介となり、昭和12年には26事件が発生。国内外に対して戦時態勢がますます進み、やがて軍部専横の風潮の高まりのなかを、ひたひたと昭和16年12月8日に向かってゆく。 歴史の表舞台へはついに一度も立つことのなかった叔父達の名前は、前記の小林智明氏の労作で初めて知った。 「付記」叔父と中学同級の方達の名前は、前記の小林智明氏の労作で初めて知った。 石井電光社がよく知っているし、御主人の大介氏も憶えがある。長谷川軼氏のお宅は西大畑、神宮様に隣接していたのではなからうか。沢海の伊藤成治氏のお名前は承知しているが、会津八一氏が戦後西大畑の伊藤邸(元は伊藤氏別荘?)に寄偶しておられたわけも、そういう縁があったことだったのかと理解できた。私は戦後の8年間西大畑にいたが、その間に度々、大柄な八一先生が無造作な和服姿で下駄を履いて散歩?(外出?)して居られるのに出会った。この時期、作家、網淵謙錠氏が先生に親炙し、また私と同級の岡嘉一君(大阪屋社長)も親しくして貰っていたように聞いている。

関東 青山三八会

38回 安達 奎 吾

6月16日、17日の両日

ふる里新潟又は、関東の開催も、それぞれの便宜も、良きもあるが時に中間点の会場も五六回もすぎた。水上・湯沢も度重なる又新しい所とあつて、今回は田村勇作君のきも入りで、群馬利根村、老神温泉とした。最も中間点と近いと思われる故に。

ホテルニュー老神からの送

三九会

初夏の阿賀野川を下る

39回 福山 健

6月12日(木)どうやら天候も良、青田を眺めながらマイクロバスにゆられてワンカップ先一杯。新潟駅より11名同乗。川舟の都合で途中沢海の伊藤邸に廻る。観光バス多数停車中で主として中年女性の数百の入場者で屋敷内は大混雑。かつての閑寂の趣きはなく、いづこも同じ大衆観光の時代。再びバスに乗り三川駅(旧白崎駅)の上流の乗船場に着く。午後一時乗船の予定が川船の都合で30分早く出発。ここで合流する予定の佐藤平

は通じ合う。片道60分強のバス旅行。入浴後、浴衣姿で開宴前の幹事の挨拶に、ご参回頂けた会員にお礼と、今後益々の御健勝とを願って乾盃、つづいて、渡辺常任幹事からここ一ヶ年間の会員の様子などの報告があり、各自飲み出してから、顔と名前が一致しない、と希望が出て、順次自己紹介があり、談笑に夜はふけた。それ程すこしたつもりもないのに、両となりの宴会は終つていた。楽しみの二日間だった。



八君と川崎孝治君は次の船に乗りつてもらうことに渡舟事務所所いたのみ、舟を中流に出す。同乗はどこの青年部らしい男女10余人。阿賀の河水は満々として波も立たず、兩岸の緑と空の碧を映して流れる。船頭の説明、大雨で出水すると川面はすぐに5、6米も上るとのこと。阿賀野川は谷が深く急流で有名。かつては津川町の鉄橋も押し流されたのだ。私は東北への出張の途次それを現に見ている。然し今日はその自然の暴力

く出かけるもんだね。それに旺盛な食欲、なんでもよく食べる。何回も会合を開いた佐取館は改築中で浴場も仮設、一浴して会食、めずらしく出席の野沢正一君に乾杯の挨拶を願ひ開会。

我が三九会も今年2月に木

67期同期会開かる

67回 大塚 明子 (旧姓 浦野)

新潟地区、東京地区合同の第一回67期青山同期会が、6月14・15日、両方の中間地点の越後湯沢で開かれました。梅雨の時期で空模様を心配しながら出かけましたが、幸い晴れの良いお天気に恵まれ久し振りに目にする上越の山々の緑も美しく、いつもの主婦気分から解放され、27年前の学生気分に戻り、ウキウキしていました。会場である、イナモト旅館に着き、受付に坐っていると、次々になつかしい仲間が集まり、すぐに思い出される顔や、名前を聞いてやっとな昔の面影を見つけた顔もあり、27年経った年月を感じながら、受け付けを終わりました。45才といえば一番の働き盛り、欠席の通知だった



打ち込んでおられる様子がかがえた。後は、あちら、こちらと、いくつもの輪ができて、話声は、若やいで、にぎやかに、時の過ぎるの忘れず話込んだ。

9時、約束の時刻で、閉会しなければならず、校歌・応援歌・一本締めで、閉会した。その日のうちに帰られる方々も10名程あり、再会を約束して別れた。後の方は、二次会場へと、向った。同じ学校で学んだ者同志の、心暖まるなつかしい同期会となりました。

昭和六十一年度 異動一覽

事務	中藤 農	沼垂 高	岩村 幸一	津川病院
主任	廣瀬 明	義務教育課	坂井 栄一	巷工業 高
主任	田沢 学	退職	中村 成子	巻農 高
主任	全日制	中野 文郎	荒川 高	山田 正栄
教頭	奈良 孝基	糸魚川 高校	丸谷 承一	松代 高 教頭
教諭	柳 下明也	柏崎 農 高 高	渡辺 寛	教育 センタ
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	高橋 真理子	津川 高
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	青木 篤良	退職
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	寺尾 芳樹	新潟 中央 高
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	橋詰 恒雄	巻 高
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	本田 至	燕 高
教諭	丸谷 承一	松代 高 教頭	清水 雄二	柏崎 商 高

画人笠原軛と

その父漁村の

60回 小林 智 明

全校がわいたボートレースが終ると、まもなくこゝろは五年生の修学旅行が佐渡へ出発した。六月十日、引率は佐渡相川出身である父の漁村先生と、深沢、内田、岡村の四先生に生徒三十九名の一行である。五年生の軛も父について一行に加わり、祖先父母の地である佐渡に渡ったと思われるが、三人に一人くらいは参加してないので或いは不参加であったか、はっきりしたことは今のところわからない。

この修学旅行については漁村の「佐渡日誌」で前に述べたが、他に記録として残っていて面白いのは河原田に泊った翌六月十三日の早朝、佐渡中学（現県立佐渡高校）と剣道の対校試合を行なったことである。前年の寄居浜での敗戦以来、臥薪嘗胆、会稽の恥を雪がんと機会を待っていた佐渡中学は、新潟中学来たるの報に、昨夕早速挑戦を申し入れて来たのである。当時の遊方会雑誌の撃剣部報によれば「勝敗取崩（ゆえい）は素より期すべからずとはいへ、若し過たば老へたる麒麟のそしりを免かれず、まして我が方の諸将ども久しく、競艇の事に関りて技を磨くに暇あざりしをや、然りと雖も、我が老武者ども卓落たる雄心、敵強して何ぞ怯まむ、戦を挑れて何ぞ遠巡せむ、即時快諾の旨をいへ送りぬ」と自信のほども勇ましく受けて立った。

試合は双方六名の選手を出し、始め二回は三本勝負、後は五本勝負で行われた。昨年の寄居浜での覇者、伊藤藤司や今添良行らと共に戦った伊藤半（新通村植尾）、大橋儀右衛門（京ヶ瀬村駒山）、円山順藏（京ヶ瀬村京ヶ嶋）、鷺尾正吾（黒鳥）それに軛

の親友、佐藤莊一郎と薄田長太郎の六人が選ばれた。相手の佐渡中学の方には、寄居浜で逆車輪十二回の勇姿を見せたあの北玲吉の顔も見える。満場、片唾を呑み、殺気漲るうちに双方火花を散らして戦った。結果はわが校の圧勝に終わったが、時に一籌を彼に輸せしものなきにあらざりし」とあるように一、二本はとられた者もいた。

やがて明治三十五年七月一日となり、新潟中学校は創立十周年を迎えることになった。この日、記念式典の席上、物理化学の鳥居休夫先生が壇上に立ち、便々たる腹をゆすりながら「……諸子聴けよ、予は三堀兵五郎と共に職員第一の古物なり。予が本校に赴任せしは正に十年前の本日なりき。……」と創立時は四大畑の曹洞宗中学校の仮校舎で、地蔵様だか阿弥陀様だかには幕を張った教室で講義をし、木魚の傍で食事をするという有様であったと、どもりどもり、時には温容に笑窪を浮かべて創立の頃を語られ、「今や諸子此の如き花散る校舎に学び、数十の教員の下に読書研鑽す。当時を夢想して大に奮励する所あれ」と言つて壇を下りた。

鳥居休夫は安政二年、会津若松の生まれ。工部大 schools 卒、秋田師範、秋田中学、茨城師範、慶応義塾を歴任して明治二十五年七月、新潟中学校の創立に物理化学の教師として迎えられた。三堀兵五郎は安政三年、長岡の生まれ。長岡洋学校、新潟学校に学び、新発田中学、明訓学校に教えられて、同じく明治二十五年七月、新潟中学校に数学の教師として迎えられた。また寄宿舎の舎監として、この頃の学生達には忘れられない思い出の多い先生であった。端艇部の部長もしておられたので、第七回生の会津八一が四年生の時に出した、後年有名になった「端艇部脱会願」はこの三堀兵五郎先生宛になっていたのである。第六回生の伊藤太郎兵衛は、創立六十周年記念「青陵回顧録」に、この創立以来の二人の古い先生の思い出を次のように記している。「先生には三堀兵五郎先生が一番印象が深くあります。数学の

先生でしたが先生の時間は眠つたものでした。舎監をして居られましたので忘れられません。余り高くない丸っこい先生でした。自習時間にコツソリ靴音を立てずに廻られ騒いでいると叱られましたがおっかなかったと今も思い出します。先生は靴を注文して、音を立てると拵え直さした等と寄宿生間に噂されて居ました。……鳥居休夫先生は化学の先生でした。鉱山に従事したことがあるとかで赤黒色をして居られ、背の高く丸っこい太った先生で怒られると頬を膨くらませ、大声を立てられたことを覚えて居ります。」



校旗が初めて授与されたのもこの創立十周年の記念式の時であった。式が終ると小林留三郎教官の号令一下、全校生徒十四組による教練が厳粛に行われた。分列式の後、余興として器械体操、相撲、野球、綱引なども行われた。なかでも相撲は四本柱に天幕を風になびかせ、土俵の中央に袴をつけた村山真雄が天下大平の軍扇を持って上り、呼出しは声をはりあげ、周りの歓声もいやが上にも盛り上り、上級下級の別なく好取組が熱戦を展開した。軛も土俵に上り、その取口、風貌は父君ジンツアマこと漁村先生にそっくりと評判された。

創立記念日が過ぎればいよいよ活動の夏である。軛は中学生最後の夏休を、級友と一緒に妙義山登山を企て、夏休に入るとまもなく出かけた。その紀行文「遊妙義山記」を遊方会雑誌に記載したことは前述したが、同行の諸橋宏桃村が五七五陳人の名で「夏木立」に記載した俳句によって、その側面を見ることができると次に掲げてみよう。

三国峠を越えて
尻を下し力餅呼ぶ団扇哉

磯部にて

青簾朱欄に酌むや白浴衣

妙義山に登りて

縷々として巖を出づる雲涼し

絶壁を鎖で攀ちぬ肌汗

清水峠を越えて

越えて来し清水峠や雲の峯

これらの句により、軛こと渡辺屠龍の紀行文に見えなかった新潟より妙義山下磯部鉱泉までの往復が、往路は三国越え、復路は清水越えの徒歩旅行であったことが判明する。元氣潑刺の新中五年生四人が、長駆上越国境の峠を踏破して、上毛の名峰妙義山に登った姿が眼に浮かぶようであり、当時の三国越の茶屋の様子なども髣髴としてくる。また別の頁に、「発心の屠龍が面や今朝の秋」とこの親友がとらえた中学五年生の軛の横顔も見える。

「夏木立」は、軛が五年生の秋十月に遊方会より発行され、新潟中学校生徒の紀行文、論説、詩、歌、俳句などを免めた変型判、二百頁ほどの文集である。前年の「龍騰虎躍録」と並んで当時の生徒活動の貴重な資料である。面白いのはその表紙の絵で、緋模様の浴衣を着て麦藁帽をかぶった少年が、竿を持って樹下に立っている絵である。昆虫採りらしい様子である。この絵が、サインこそないが軛の絵と思われることである。そうだとすると、画人笠原軛（この頃はまだ渡辺）の描いた、現存するもので今のところ一番古い絵ということになる。これはその後の遊方会雑誌第十五号（明治37年）以下の裏表紙の軛の絵、同じく第十九号（明治39年）の中の常盤ヶ岡や信濃川の絵のタッチと、諸般の事情などから判断してほぼ間違いないと思われるのである。

（次号につづく）

昭和61年度 現役の活躍(運動部)

今年も各部県総体で青陵健児の意気高く大活躍、紙面の関係上掲載されていない部や個人戦に於ても強豪を多いに苦しめた。

特筆されるのは全国大会三年連続出場、陸上部女子走高跳横沢美貴、今年こそ上位入賞を、又全国大会久々の出場レスリング室賀亮、二年生ながら、一、二回戦突破を期待

したい。(全)は全国大会出場

県総体 北信越大会

陸上

800 m 5位木村秀之 予選
6位猪股弘明 予選
110 m H 5位長岡拓馬 5位全
5000 m W 1位佐藤 元 1位
4位馬上 理 予選
男走高3位村山範男 予選
男走高2位青木健至 予選
3000 m C 3位青木健至 1位全
女走高2位横沢美貴 1位全

フエッシング

男子団体 1位 1回戦 全
男子フルール1位斉藤俊英
男個サーブル1位宗田 聡
漕艇男ナックルフォア
Aチーム 2位 準決勝
Cチーム 3位
男舵手付フォア1位準決勝全
男子総合 1位
レスリング
48 kg級3位田沢進一郎2回戦
56 kg級1位室賀 亮3位 全
ラグビー 2位 3位
剣道男子団体 3位 予選

女子団体 ベスト8位
軟式庭球
男子団体 3位 準々決
個人ベスト8加藤(出)加藤(崇)組
ベスト16阿部(仁)坂井(秋)組
いづれも北信1回戦
柔道個人71kg以下ベスト8位
石井佳誉 北信2回戦

水泳
男子200 m平6位阿部政樹
女子100 mバタ3位五十嵐涼子
200 mバタ5位 北信へ
サツカー3位
バドミントン女子団体ベスト8位

競歩ととも

三年二組 佐藤 元

私は高校へ入ってから陸上を始め、そして先生のすすめというより走る人がたくさんいるから、やる人が少ない競歩へおしこめられました。最初は適当にやっていたのですが、次第にこの種目が私に向いているということがわかり、一年の終わりに頃から一生懸命やるようになりました。冬場に黙々と歩いているうちに、なんとなく「速く歩くコツ」というのがわかってきて、希望に燃えて二年の春をむかえました。

すると下越地区大会、県大会と勝ち、北信越大会も3位で、秋の国体選手に選ばれました。夏の苦しい合宿を経たら秋には絶対調となり、国体において6位、その後のジュニアオリンピックにおいて3位、そして県高校記録を樹立し、最高の年を送ることができました。

三年生になり、二年の時が絶頂だったということがないやうにと、これまで以上に練習に打ち込んだ結果、左ひざを二回にわたって痛め、一月

と四月を棒に振ってしまいました。その後しばらく調子が出ず、非常に苦しい時期を送りましたが、県総体頃から調子上がり、北信越大会では自己の持つ県高校記録を更新し、日本高校記録にあと一秒足らずという快記録を樹立でき、ホッとしました。

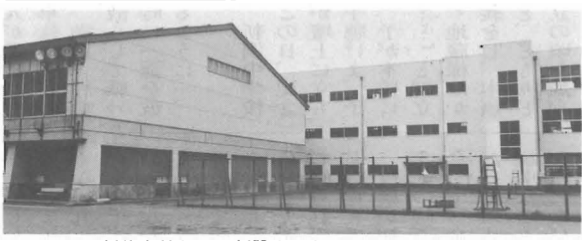
残念ながら今年最大の目標にしていた海外遠征は、選考大会が、一回目がけがが直ってから一週間後、二回目が北信越大会の一週間後というこ

とで、全然力が出さきれないままに終わってしまいました。もう少し計画性をもてば良かったと後悔していますが、そのくやしさを秋の国体につけていたいと思います。

★ 今号は、大先輩齋藤英四郎氏が経団連の会長に就任されたのでご多忙を承知で、会報への寄稿をお願いしたところ、早速お送り下さり、編集部一同感謝しております。各地、各会よりの講演、寄稿依頼の中を、母校、後輩のために本当にありがとうございます。栗林貞一氏も、同様ご多忙の中をこころよくご寄稿を賜りました。お礼を申し上げます。同窓各位が、各界で活躍の事は、同慶の至りです。各期幹事諸兄におかれましては、そんなニュースがありましたら、紹介又、寄稿をお願いいたします。

★ 今年の春は、現役諸君の入試に於ける活躍がめざましくこれ又同慶であります。最近の現役諸君は、文武両道、めざましい躍進ぶりが、毎年つづいております。ラグビーの花園出場に寄せられた寄附を始め、先輩方の物心両面の励ましが、若い現役諸君の各方面へ大きく伸びてゆく原動力となります。同窓を結び、母校の発展を願う一助になればと、会報編集部もがんばっております。各位のご協力、又ご批判をお願いいたします。

校庭スナップ



新体育館わきに新設されたテニスコート2面

昭和60年度 青山同窓会費納入者追加分 (1月より3月までに納入のもの)

(郵便振替口座 新潟5-4455青山同窓会) (第四銀行学校町支店口座 0275216青山同窓会)

会費納入のお願い
年会費1口 1,000円
できるだけ1人2口以上でお願いします。
納入先 新年会・総会の会場
又は母校同窓会事務局へ

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名
27	真壁喜三郎	38	桶谷勇策	45	石橋映	48	城原次郎	55	金子隆弘	61	山本夫	64	星川満	70	杉本正
29	水石重久	39	上林三郎	46	小池平	49	空澄省	56	武佐三	62	大塚山	65	川沢哲	71	内田中
31	太田重五	40	藤藤三郎	47	山石志	50	谷倉大	51	佐加三	63	丸大山	66	星川小	73	熊中阿
32	金曾我	41	高小三郎	48	小石志	52	倉倉大	52	荒久三	64	丸大山	67	星川小	75	岡田阿
33	曾我大	42	小南三郎	49	山石志	53	倉倉大	53	久福三	65	丸大山	68	星川小	76	岡田阿
34	大上清	43	佐賀三郎	50	山石志	54	倉倉大	54	福佐三	66	丸大山	69	星川小	77	岡田阿
35	佐西若	44	佐賀三郎	51	山石志	55	倉倉大	55	佐藤三	67	丸大山	70	星川小	78	岡田阿
36	若丸後														
38	白														

編集後記

義樹夫男之裕作幸五直之司次
本藤中倉原部 村辺橋林木五
杉内田熊中阿岡田大小鈴五十
通信制 95名